



報道発表資料の配付日時 1月21日(金) 16:00

発表項目 (行事名)	「新北海道スタイル アイデアコンテスト」 一次選考通過アイデアの決定と道民賞を選ぶインターネット投票の開始について								
記者レクチャー のお知らせ	(実施日時)	発表者							
		発表場所							
概要	<p>道では、デルタ株が猛威を振るった第5波を踏まえ、若年者の方々にも感染症対策について改めて考え、実践いただくことが重要との考えから、道内の中高生・大学生を対象に感染症対策を効果的・効率的に取り組むためのアイデアを募集しました。</p> <p>コンテストには、道内の100校から765件の応募をいただき、このたび、18件のアイデアが一次選考を通過しました。今後、このアイデアから、アドバイザーの方々が「最優秀賞」などの受賞アイデアを選考しますが、「道民賞」を選考するインターネット投票を本日から開始しましたので、お知らせします。</p> <p>どなたでも参加できるインターネット投票を通じて、道民の皆様にも、道内の学生が考えた感染症対策を広く知っていただくとともに、感染症対策の実践・継続について考える機会としていただきたいと思います。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <ol style="list-style-type: none"> 一次選考通過アイデア 中高生の部：9件、大学生の部：9件の計18件 ※詳細は別紙参照 「道民賞」の選考方法 一次選考通過アイデアを対象にインターネット投票を行い、最も得票数が多かったアイデアに道民賞を贈呈します。 インターネット投票の概要 <ol style="list-style-type: none"> 実施期間：令和4年1月21日(金)～2月7日(月) 実施方法：専用のホームページで、実践してみたいと思う感染症対策や、あったらいいなと思う感染症対策など、「いいね！」と感じたアイデアに投票（「いいね！」ボタンをクリック）していただきます。 ※1アイデアにつき、一票まで投票できます その他：詳細は、専用のホームページをご覧ください。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(参考) コンテストの概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 募集期間：令和3年10月12日(火)～令和4年1月17日(月) 部門、応募件数： <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>部門</th> <th>中高生の部</th> <th>大学生の部</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>応募件数</td> <td>663件</td> <td>102件</td> </tr> </tbody> </table> 選考：一次選考・二次選考の結果を踏まえ、受賞アイデアを決定します。 【アドバイザー】 公益財団法人北海道科学技術総合振興センター 真弓明彦 理事長 北海道医療大学 塚本容子 看護福祉学部教授 エコモット株式会社 入澤拓也 代表取締役 株式会社AIRDO 草野晋 代表取締役社長 賞：①最優秀賞、②優秀賞、③アイデア賞（独創性と実現可能性に優れたアイデア(テーマごとに選定)） ④道民賞（一次選考を通過した中で、インターネット投票による得票数が最も多いアイデア） ※いずれも各部門から1点 表彰式：令和4年2月19日(土) (予定) </div>			部門	中高生の部	大学生の部	応募件数	663件	102件
部門	中高生の部	大学生の部							
応募件数	663件	102件							
参考									
報道(取材)に 当たって のお願い	<p>本コンテストを通じて、道内の中高生や大学生の方々に、感染症対策を意識し、実践していただくとともに、<u>広く道民の皆様にも学生が考えたアイデアを知っていただき、感染症対策の実践・継続につなげていただきたいと思います</u>と考えていますので、積極的な報道をお願いいたします。</p>								
他のクラブ との関係	<p>同時配付(場所) 同時レク</p>								
担当 (連絡先)	<p>経済部経済企画局経済企画課(担当者：企業活動支援班 主幹 篠原裕史) TEL ダイヤルイン 011-206-0289 内線 38-502</p>								

北海道スタイルアイデアコンテスト 一次選考通過アイデア

部門		中高生の部			
番号	応募テーマ	アイデア名	アイデアの内容	アイデアを提案した理由	アイデアにより期待できる効果
1	飲食の場面での感染症対策	コインパーキング式の追加徴収	<p>入店時刻と退店時刻を記録するカードと読み取り機械を開発する。 (一連の流れ) ①客は入店時に店員からカードキーを受け取る。受け取った際に読み取り機で読み取ることと端末(カードキー)ごとの入店時刻を記録する。 ②食事を終え、会計を行う際に食事に要した時間分だけ追加徴収を行う。</p>	<p>飲酒を伴う懇親会等は気分の高揚・注意力の低下で大きな声になりやすく、敷居などで区切られた空間、及び長時間での飲食では感染リスクが大幅に増加する。 この方式を採用することで、長時間・大人数での飲食を金銭面で抑圧することが出来るのではと考えた。</p>	<p>例えば2時間は無料で、そこから〇時間〇円といった徴収レートを設定することによって、一般客に迷惑がかからないようにする。 すると、長時間居座るグループのみこの金銭面での圧力を感じ、懇親会などの時間が減少することが想定される。 懇親会の時間が減るといことは、微々たるものではあるが、感染リスクも減少するのではないかと考えられる。ただし徴収レートや協力店などの課題は残っている。</p>
2		子供が安全に楽しく食べられるための手指消毒	<p>子供が積極的にアルコール消毒するように、ボタンを押すとキャラクターの声とアルコールが出る機械を作る。</p>	<p>アルコール消毒の重要性がまだ理解出来ない子供にも、アルコールによる手指消毒を積極的にしてもらう為にあったらいいと思ったから。</p>	<p>子供の積極的な手指消毒、機械を作る会社、メーカーの経済的利益</p>
3		大声を出す人に、明るく楽しく北海道らしく、「いまは小声で」と伝えよう	<p>飲食店の各テーブルに、騒音測定する機械を設置して、大きな声で騒ぐ人に注意する。その時に気まずい雰囲気にならないよう、また北海道らしさも出せるように、アイヌ語でも注意すると面白いと思う。 今は、注文用のタブレットをテーブルに置いている店も多いので、騒音お知らせアプリを作ってインストールすれば、簡単にできるのでは。</p>	<p>先日、外食した時に近くのテーブルに大声で話している人がいた。わざと騒いでいるわけではなく、一生懸命話している声が大きくなっている様子で、周りの人も注意しづらそうな雰囲気だった。 そんな時こそ、いやな空気にならないような注意ができるといいと考えたため。</p>	<p>①同じテーブルにいる人も、その周囲のテーブルにいる人も、大声を出してしまった本人も、皆気持ちよく外食を楽しむことができる。 ②北海道に住んでいる人も観光客も、アイヌ語を知り、アイヌ文化を理解するきっかけにすることができる。</p>
4	学校生活での感染症対策	冬休み、コロナウイルスの作文(レポート)コンクールを開催する	<p>冬休みにコロナウイルスのレポートのコンクールを開催し、作品を募集する。応募者には参加賞として、普段使っている消しゴムなどの景品を用意すると応募する人も増えると思う。</p>	<p>正直、学校の感染対策に関しては、学校側はしっかり対策をしているが、肝心の生徒たちがあまり感染対策をしっかり意識していなかったり、他人事になっていたりするため。</p>	<p>このコンクールを開催することで、皆が自分からコロナウイルスについて調べる機会ができ、正しい知識を身につけることができるようになったり、友達とレポートを見せ合ったりする中で感染対策に対する意欲がより一層深まるという効果が期待できる。</p>
5		換気を一番できているクラスになろう!	<p>教室の二酸化炭素の濃度を測り、一ヶ月ごとに平均や最大、最小の量を集計してランキングにする。一位だったクラスには何かの景品や賞状をプレゼントする。</p>	<p>教室で二酸化炭素の濃度を測っているが、ただ測っているだけで換気をしようとする事に繋がっていないため、ランキング形式にすれば換気への意識が高まると思ったから。</p>	<p>教室の二酸化炭素濃度に気がつくことで、教室の換気をより行うことができ、コロナウイルスが広がることを防ぐことができる。</p>
6		飛沫を防ごう	<p>給食時間に何か映像を流したり、放送委員が生徒たちの興味を引くような放送を流し、友達と話すのを防ぐ。</p>	<p>コロナウイルスが流行ってから給食時間は黙食となったが、校内では、何人がマスクを外したまま話している人を見かけるため。</p>	<p>飛沫防止やテレビで流す内容によっては、私達の役に立つため。</p>

新北海道スタイルアイデアコンテスト 一次選考通過アイデア

部門	中高生の部				
番号	応募テーマ	アイデア名	アイデアの内容	アイデアを提案した理由	アイデアにより期待できる効果
7	イベントでの感染症対策	防寒・消毒・エコなカイロ「バキッとハンドジェル」	リサイクルエコカイロに除菌ジェルをくっつけた商品で、冬の屋外イベントでの配布を目的としている。携帯するカイロに除菌ジェルをくっつけることで、いつでも除菌が可能。なお、除菌ジェルは詰め替え可能なものにする。	寒い冬の屋外で冷たい除菌ジェルを使用すると、手が冷えたり荒れたりすることから、使用を躊躇ってしまう。この「バキッとハンドジェル」は、カイロの熱でカイロにくっついて除菌ジェルが温まるので、寒い屋外でも躊躇無く除菌することができる。	2月に開催される雪まつりなどで配布したいと考えており、寒い冬でも食事の前などに除菌する人が増え、クラスターの発生を抑える効果が期待できる。 また、カイロとして体を温めることで風邪予防にも繋がる。繰り返し使用可能な商品で地球にも優しいことから、イベントの主催企業や出店する飲食店などが積極的に配布することも期待できる。
8		ガムテープ型簡単除菌シール	ガムテープのようにになっている除菌シールで、使用分をちぎり、気になるところをべたべたするだけで簡単に除菌ができる。	除菌シートやアルコール消毒は刺激が強く、小さいお子さんや食事をするときにあまり良いとは思えない。また、服や布にかけると濡れてしまい、乾くまで待たなければいけないなどの問題点もある。 しかし、ガムテープ型シールなら、アルコールをつけすぎることなく、服や布も簡単に除菌することができます。	濡らしてはいけないものや、すぐに使いたい物を除菌できるので、手指や持ち物を除菌するだけでなく、着ている服も除菌することができる。
9		クラスマスクを作成しよう！	クラスの人たちが、それぞれ違うイラストや模様の入った自分用のマスクを作る。もしくは、クラス皆で柄を考えて統一させる。	映えるデザインであったなら、感染症対策もできることから、女子高生などには人気が出そう。 皆自然とマスクを付ける習慣が付き、Tシャツよりも値段も張らないだろうし、シンプルかつ大いに実現可能であると考え。	上記にも書いた通り、感染症対策、女子高生の中のブーム、値段が現実的であること、シンプルでこの高校も取り入れやすい。

新北海道スタイルアイデアコンテスト 一次選考通過アイデア

部門	大学生の部				
番号	応募テーマ	アイデア名	アイデアの内容	アイデアを提案した理由	アイデアにより期待できる効果
1	飲食の場面での感染症対策	桜は散り際も美しい	お客さんが席について所定の時間(小1時間～2時間)経過したら、プロジェクションマッピングが壁に投影され、ショートムービーが流れて帰宅を促す。座席にはあらかじめ時間経過を知らせるイルミネーションを設置し、お客さんが会計するまで点灯させておく。	感染が落ち着き、ストレス発散に人々は動いている。自粛は皆承知のことなので、水を差す促しではなく、癒しや感動を利用して促したいと考えた。暗に適切な行動を促すナッジ理論が提唱されている。	プロジェクションマッピングでサプライズ感(ワクワク)を与え、ムービーで癒しまたは感動を与えながらも帰宅を促す。イルミネーションの癒しの光は時間経過を周囲にも知らせ、さらに帰宅を促すことが期待できる。
2		ゲーム感覚で感染症対策！～めざせ！55デシベル以下！～	会話の声の大きさをデシベルで計測するアプリを使用して音量測定をする。お店に滞在している間、既定の音量を守ると、ちょっとした特典がもらえる。※特典はお店ごとに決めもらう アプリは、55デシベルを超えるとバイブレーションが作動する。3回以上超えると、音が鳴るようにしておく。デシベルの規定については店側で変更可。	飲食店で、会話の声量が多い人が多く、声量を抑えることで感染症対策になると考えた。みんなが楽しく取り組めるようにゲーム感覚でできる感染症対策にしたい。タブレットでの注文のお店だと、アプリを入れるだけでよいのでコストもかからない。日常生活で望ましい音量を参照し、55デシベルにした。	大きな声を出すことによる飛沫の防止や、ほかのお客様への迷惑防止が期待できる。堅苦しいイメージのある感染症対策をゲーム感覚で行うことで、子供から大人まで楽しめる。
3		冷食もらって早く帰ろう	飲食店を2時間以内に退店したお客さんに、おつまみの冷凍食品をプレゼントする。	店内での感染リスク低減のためにお店を2時間以内に出でほしい。しかしお客さんの立場で考えると、ゆっくり楽しみたい。私も実際に食べ終わってもしばらく話し込んでしまった経験がある。そこでお客さんが協力したくなる特典(冷凍食品のプレゼント)を用意することを提案した。	2時間で退店するだけで無料で冷凍食品がもらえとなれば、食後すぐにお店を出る人が増えると思う。しかし、2軒目へとハシゴされては意味がないが、冷凍食品を渡すことですぐに家に帰るのが自然な流れになる。さらに、おつまみになる冷凍食品にすることで、飲み足りない人は宅飲みに切り替えてもらうことができる。
4	学校生活での感染症対策	吊革に、掴まりたいよー	列車やバスの吊革を掴む用のビニール/ゴム手袋を設置する。設置場所は列車なら駅構内やホームに。バスなら整理券を発行する機械の横など。	コロナ禍になってから、通勤・通学の満員電車やバスの吊革に掴まるのに抵抗が生まれた人は多いと思われる。しかし電車はまだまだバスで吊革に掴まらないのは非常に危険であり仕方なく掴むことになり、このシレンマを解消したかったため。	吊革を通しての不特定多数の人間との接触が減り、感染リスクが下がる。また無理に吊革に掴まらない人が減り、事故等を防げる。
5		ICS (Infection Control System) 感染対策システム	入り口前に張り出される個人用バーコードをスキャンし、その場で出席、検温を同時にできるシステム。 平熱登録機能で、各々にあった基準を作ることで元々平熱が高い方でも正常に機能することができる。	世間がコロナ禍に慣れ始め、同じことの繰り返しから感染症への意識が低下している。 そのため、検温器に出席確認機能を付け、授業を受ける学生全員が手指消毒を確実にできるシステムが必要だと考えた。	検温とアルコールによるコロナ対策だけでなく、バーコードを用いた出席の確認の簡略化や不審者対策の防犯システムとしても効果が期待でき、さらにこのシステムは学校に限らず職場、老人ホームなど様々な場所でも活用できる。
6	学校生活での感染症対策	席の色分けで接触感染を回避！	大学の講義室の席に、赤・青・黄のテープを各色が隣り合わないように貼る。1限目は、赤のテープが張られた席のみを使用する。2限目は青、3限目は黄の席のみを使う。そうすることで、一日に同じ席を複数人が使用することを避けることができる。	講義室でソーシャルディスタンスを保って座っていても、前の時間に感染者が使用していた机を使えば、接触感染の可能性が高まる。その不安を払拭したいと思い、このアイデアを考案した。	授業ごとに使う席を色分けすれば、一日に同じ席を複数人が使用することを避けることができ、接触感染の機会を減らすことにつながるだろう。また、消毒作業の効率化も図れる。1授業終わるごとに全ての席を消毒するのではなく、全ての授業が終わってからまとめて消毒すれば済むようになる。

新北海道スタイルアイデアコンテスト 一次選考通過アイデア

部門	大学生の部				
番号	応募テーマ	アイデア名	アイデアの内容	アイデアを提案した理由	アイデアにより期待できる効果
7	イベントでの感染症対策	コンサート・イベント開催時の混雑回避についてのアイデア	コンサート・イベント開催時の混雑が予想される場面として、入場、グッズ販売、トイレ、退場があります。特に、退場時は混雑し、案内係による規制退場の呼びかけは密を回避できず、効率的ではないと考えました。そこで、入場時に一人ずつQRコードを読み取ってもらい、自分の座席を入力してもらうことで、退場の順番、各々の座席からの出口までの経路が、イベント終了までに送信されるというものがあれば便利だと考えました。	私自身がコンサートに参加した際、コロナ対策下での実施でしたが、退場時は混雑し、密だと感じたからです。また、声を出さずに参加をする公演中に比べ、興奮で声が大きくなってしまふ公演後は感染のリスクが高まります。人々がより安全に参加できるような仕組みを作りたいと思ったからです。	イベント開始前に参加者が帰宅時の流れを把握できれば、イベント終了後は、混雑による密を回避した退場、案内係なしでの混雑緩和が可能だと考えました。コンサートに限らず、感染を恐れてイベントに参加することを控えている人もいますが、本案を実践することで、そういった人々の参加を可能にするシステム実現が期待されます。
8		アンケートで決める感染症対策に優れたイベントグランプリ	イベントの主催者がグランプリにエントリーし、様々なイベントで同一のアンケートを来場者に回答させ、その結果を集計する。最も優れたコロナ対策を行ったイベントやその主催者を部門ごとに表彰するグランプリを開催する。	イベント主催者が開催にあたり感染対策をPRするも、その対策が実際に行われたのか、優れていたのかは分かりにくい。様々なイベントを同じ質問によって比較することで、客がイベント参加の判断の基準の一つとして役に立つと考えたから。	イベント主催者は、グランプリに積極的に参加することで、万全のコロナ対策やイベント自体をPR出来ると期待できる。来場者側は、イベントに安全を求めることができ、数字として分かる次回以降のイベント安全指数を手に入れることができる。
9		メッセージによるソーシャルディスタンス	使用禁止の座席や列の間隔の目安とするステッカーに、「今は、きよりとって」に加えイベント参加者のメッセージを載せる。イベントに対する思い、守りたい感染対策、よびかけ等を予め募集し反映させ、会場で距離をとりたい場所に使用することで、感染症対策への意識の向上と密を避けたイベント実施を目指す。	イベント会場では、人が多く集まるため、列や座席で距離をとることがより求められる。しかし、高揚感や人数の多さから、表示を無視して座ったり距離を詰めていたりという状況も少なくなく、全ての人が安心してイベントを楽しめるとはいえない現状があると考える。	同じようにイベントを楽しみにしている他のお客さんの気持ちも知ることで、感染症対策を徹底する気持ちをより高めることができる。また、メッセージを読むことで、ステッカー部分の上に立ったり座ったりすることが少なくなることが予想され、適切な距離が保たれることが期待できる。